

口永良部島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

9月27日から火山性地震が一時的に増加しましたが、9月30日以降は少ない状態で経過しています。火山性微動は10月7日以降観測されていません。また、GPSによる地殻変動観測でも、新岳火口浅部の膨張を示す変化は認められません。

これらのことから口永良部島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったと判断し、本日（30日）11時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（平常）に引き下げ、火口周辺警報を解除しました。

ただし、火口内では引き続き噴気や火山ガスの噴出等が見られることから、火口内等では警戒が必要です。

○ 活動概況

・地震や微動の発生状況（図1、図2）

火山性地震は9月27～29日にかけて一時的に増加しましたが、9月30日以降は少ない状態で経過しています。

火山性微動は9月28日～10月6日にかけて発生しましたが、10月7日以降は観測されていません。

・地殻変動の状況（図2、図4）

GPSによる地殻変動観測では、今回の地震増加に伴う新岳火口浅部の膨張を示す変化は認められませんでした。

・噴煙など表面現象の状況

遠望カメラ（新岳火口の北西約3km）の観測では、地震の増加前後と比べて噴煙の状況に変化はなく、新岳火口から白色噴煙が時々観測されています。

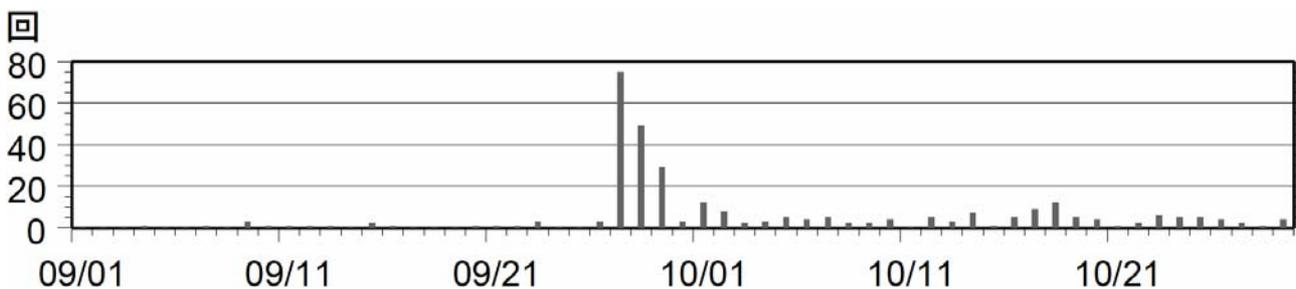


図1 口永良部島 火山性地震の日別発生回数（2009年9月1日～10月29日）

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

※この資料は気象庁のほか、独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平20業使、第385号）。

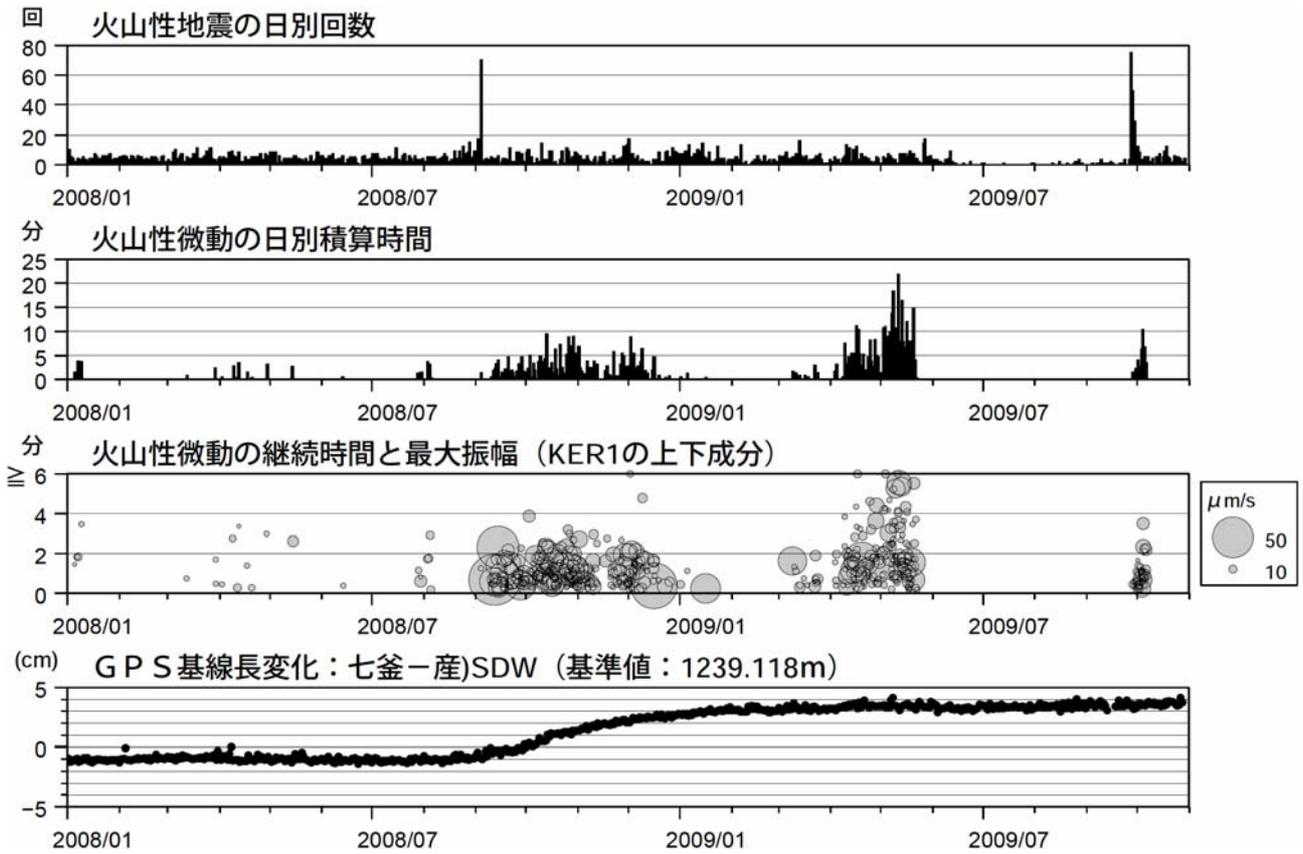


図 2※ 口永良部島 火山活動経過図 (2008 年 1 月 1 日～2009 年 10 月 29 日)

- ・火山性地震は 9 月 27～29 日にかけて一時的に増加しましたが、9 月 30 日以降は少ない状態で経過しています。
- ・火山性微動は 9 月 28 日～10 月 6 日にかけて発生しましたが、10 月 7 日以降は観測されていません。
- ・GPS による地殻変動観測では、今回の地震増加に伴う新岳火口浅部の膨張を示す変化は認められませんでした。この基線は図 4 の⑥に対応しています。

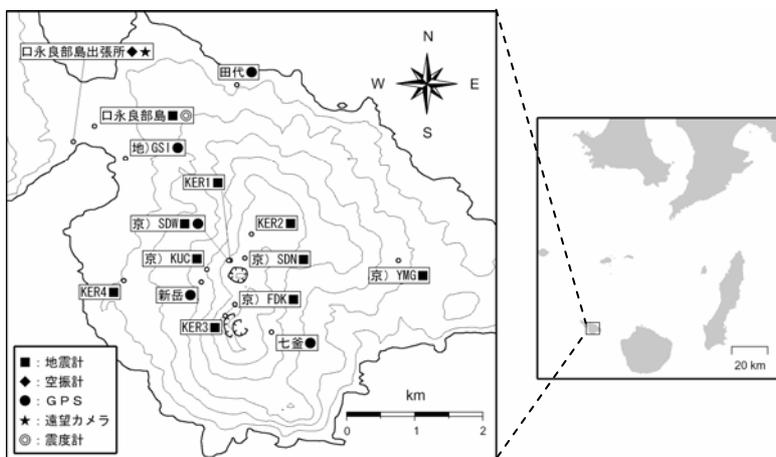


図 3 口永良部島 観測点配置図

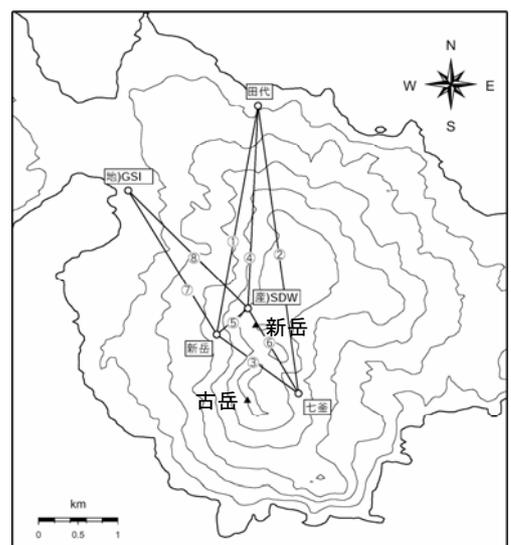


図 4 口永良部島 GPS 連続観測点と基線番号